

なな山だより 30号

2014年1月12日 なな山緑地の会発行



あけまして おめでとうございます



「なな山のご神木」 青木弘年

みなさまのご支援のお陰で、当会は昨年、創立10周年を迎えました。10周年を記念し、記念誌の発行、なな山緑地イラストマップ、キャラクターの作成、記念セレモニー、イベント(バーベキュー会)の開催などを行いました。

記念セレモニーには、阿部多摩市長はじめ、市の関係者のみなさま、グリーンボランティア関係のみなさまなど多数ご参加いただき、会員と共に楽しい時間を過ごすことができました。

この10年を振り返りますと、管理エリアは約1ヘクタールから道路の法面をあわせて約2.9ヘクタールと約3倍に、会員数は20数名から50数名になり、また、平成18年から続いていた、子どもたちの自然体験学習で、なな山緑地を訪れた児童、生徒の数は、昨年、200名を越え過去最多となりました。これからも、子どもたちに体験学習の場を提供し自然の大切さ、素晴らしさを体感して頂きたいと思います。しかし、何にもまして喜ばしいのは、この10年間、大きな怪我も事故もなく活動を続けられたことでもあります。

今年から、また新たな一歩を踏み出します。安全を第一に会員のみなさまと共に楽しく活動を積み重ねて参りたいと存じます。

そして引き続き多くの方々に、ご協力、ご支援を賜りますようお願いして新年のごあいさつとさせていただきます。

2014年1月

なな山緑地の会 会長 高木直樹

10周年記念イベント開催

当会は昨年、創立10周年を迎え、記念誌の発行、なな山緑地イラストマップ、キャラクターの作成に続き、昨年の11月24日にメインイベントの記念セレモニーとバーベキュー会を開催しました。

当日は快晴に恵まれ、8時半から、テント、パラソル、写真展示、テーブル、コンロ5台の火起こし、野菜の下ごしらえなど準備を整え、11時半から、10周年記念式を開始しました。高木会長の挨拶、阿部多摩市長の祝辞に続いて、早速バ

ーベキューを始めました。参加者は、市長、市の関係者、グリーンボランティアの関係者など来賓が15人。会員とその家族も含めて37人、合計52人となり、バーベキューを頂きながら、全員で楽しい時間を過ごしました。13時過ぎから相田さんの案内でなな山緑地の散策も行い、14時半頃終了しました。美味しいバーベキューと秋のなな山緑地の景観を楽しめた10周年にふさわしいイベントになりました。(鎌田)



100人を超える参加「なな山で遊ぼう 2013」



多摩第二小学校おやじの会幹事 石崎博幸



木の枝やどんぐりでいるいな物を作りました

12月15日（日）朝9時30分、二小の子どもたち100名、幼児20名、保護者と二小の先生合わせて約50名、合計約170名が、晴天に恵まれるなか、なな山緑地に集まりました。

毎年恒例の、「なな山で遊ぼう」は今年で早9年目になります。始まった年は本当に少人数でしたが、毎年参加する子どもたちが増加して、今年は100名を超えるまでになりました。

なな山では木工細工や丸太切り体験、ターザンロープやブランコ、落ち葉の斜面でソリ遊び、木登り、カブ

ト虫の幼虫獲り、など人気の遊びがたくさんできます。ターザンロープなどでは先生も保護者も子どもたちと一緒に楽しまれていました。雑木林の中を走り回ったり、拾ってきた枯れ木でチャンバラごっこをしたり、弓矢を作ってみたり、子どもたちが自然の物を利用して遊んでいるのを見て、昔を思い出していた保護者もいたのではないのでしょうか。普段なかなかできない遊び、自然を体験できることが、なな山の魅力であり、子どもたちが目を輝かせ、生き生きとしているのがわかりました。

お昼にはPTCAの役員さんが「けんちん汁」を、おやじの会OBからは今年は「やきとり」が提供され、「けんちん汁」を何度もお替わりをしている子どもも多く、野外でとる食事を満足できたのではないかと思います。

あっという間に時間が過ぎた一日でした。そして、もっと多くの子どもたちに体験してもらいたいと思う企画がこの「なな山で遊ぼう」です。

最後に、いつもご協力を頂いている「なな山緑地の会」の皆様、校長先生を始め参加を頂いた二小の先生方、PTCA、おやじの会とOBのみなさん、お疲れさまでした。準備も含め、ありがとうございました。また、来年もよろしくお祈いします。



今年も好評でした「ターザンロープ」



最後に集合写真を撮りました

「環境学習セミナー第4回」がなな山で行われました

11月9日(土)10時~12時30分、多摩市役所環境政策課、多摩市民環境会議共催の「環境学習セミナー 第4回」がなな山で行われました。講師は自然写真家、日本土壤動物学会会員の皆越ようせい氏となな山緑地の会の相田幸一氏で、受講者は14人でした。まず、広場では丸太イスをひっくり返して土壤動物を観察。西の山頂上や落葉囲いの中では土をふるいにかけて、白い敷物の上にふるい落とされた動物を観察。初めて聞く名前ばかりでした。落葉囲いの中の1cmほどの黒い楕円形の粒は、カブトムシの幼虫の糞とのこと、臭いをかぐと木の香りがしました。相田講師からは生産者(植物)、消費者(昆虫、小鳥、猛禽類)、分解者(土壤生物)は里山の生態系を表しているが、その典型をこの「なな山緑地」で見ることができ、土壤生物の役割は自然界の基礎として、その存在は重要であるという内容でした。(中原)



「なな山緑地、自然観察会」報告

11月24日9時30分~12時、グリーンライブセンター主催の「なな山緑地、自然観察会」が行われました。講師は柴田素子氏と相田幸一。参加者15人とスタッフ1人でした。晩秋のなな山の観察ポイントは 1. 実りの秋の草木の実の観察 2. なな山の特徴の3通りの植物相の比較、となりました。木の実ではサカキ、コバノガマズミ、ナツハゼ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、マユミ、ゴンズイ、ネズミモチ、コナラ・クヌギは落ちたドングリ、それにマンリョウ、センリョウ、カラタチバナ。草の実ではヤマユリ、キチジョウソウ、ヤブラン。木々の紅葉も始まっています。ヤマザクラ、コナラ、ケヤキが赤茶色に、イヌシデが黄色に、カマツカの色付きが美しい。エンコウカエデその他も緑色を薄めてきました。花では唯一リンドウが盛り。コウヤボウキ、オケラは花殻となっています。参加者それぞれがなな山の自然を楽しみ喜んでくれたようです。(相田)



南鶴牧小学校の植物観察会

11月30日(土)10時過ぎに南鶴牧小学校の生徒32人が先生と保護者数人に付き添われて、なな山へ植物観察にやってきました。相田さんの指導のテーマは、木の実と落葉を集めて、植物の違いを確認することでした。各自持って来た袋に木の実と落葉を拾いながら歩き、クヌギとコナラのどんぐりの違い、カラタチバナとマンリョウ、ムラサキシキブとヤブムラサキの違いとホオノキの葉の大きさなどを確認しました。中の谷の落葉囲いまで来ると、皆カブトムシの幼虫掘りに夢中、1匹ずつお土産に持ち帰りました。中の山の常緑樹を観察した後、スギの木に立てたワンタッチラダーで、はしご登りをして大喜びでした。広場へ戻ってお昼を食べ、12時20分のバスで帰りました。(中原)

深めよう会員の絆

リレー随筆

森に惹かれて読む本は

青木弘年

旅の楽しみは出る前の準備である。訪れる国の歴史や伝統、聖堂や美術館のこと、安価ホテルのリスト、それぞれの国で最低しゃべれる言葉、そして時刻表、それらは全て私の愛読書になっていた。そして、一年の三分の一を森と向き合うようになった今、「森」をもっと知りたくなり、書店に入っても「森の書」に目がいてしまうようになった。20年ほど前になるが、柳生博の「森と暮らす森に学ぶ」が森に接するきっかけになり、それから何冊か(後述)読んでいる中で最近、内山節「森にかよう道」同著「怯えの時代」に大きな感銘をうける。森と人間の関係が今日ほど希薄になった時代はない。村の変容と戦後の森の変化、社会の変貌に対する厳しい視点で書かれている。自然と人間の共存はかつてどのように守られてきたのかを考えさせ、私たちの作りだした現代社会が、日本の森を苦境に落とし入れているのが、よくわかる。昔、人々は森や水に守られて生きてきた。しかし現代の巨大技術や巨大システムに、いつのまにかのみこまれ、人間は無力にさせられてきた。自分たちの力で生きていると感じられるには、自然と人間の在り方を、見直す必要があるように思う。こんなことを考えていると、私は日本の美しい森をもっと見てみたくなった。次は「森を見る旅」の本探しになりそうだ。

●森の書●

「森林からのニッポン再生」 田中淳夫

「森林と人間」 石森謙吉

「ブナの森を楽しむ」 西口親雄

「自然再生」 鷺谷いづみ

「山と森の人々」 四手井綱英

「森林の生活」 堤 利夫

「自然観察入門」 日浦 勇

「雑草のはなし」 田中 修

「森のいろいろ事情がありまして」 ビッキオ

「照葉樹林文化」 上山春平

「森の紳士録」 池内 紀

「森の自然学校」 稲本 正

「森の力」 浜田久美子

「森の不思議」 神山恵三



なな山日記 (活動・観察記録)

とたに えま

<p>No.220 2013年7月28日(日) 晴れ/曇り 気温30℃ 参加者19人</p> <p>蒸し暑い一日。畑で収穫したスイカ2個を試食。</p> <p>●作業/中の山階段整備。広場草刈り。東の山バリケードと道づくり。クズの蔓でリース作り。スイカ収穫。サツマイモの蔓返し。</p> <p>●観察/クサギ、ヘクソカズラの花が咲いた。セミの合唱の中にヒグラシの声を聞いた。</p>  	<p>No.221 2013年8月11日(日) 晴れ 気温34℃ 参加者17人</p> <p>猛暑のためスイカは美味しく、作業は午前で終了。</p> <p>●作業/側溝、道路の掃除。法面草刈り。クズの蔓でリース作り。植物養生。スイカの玉直し。</p> <p>●観察/ヤブラン、ガンクビソウ、アオツツラフジの花が咲いた。エビヅルの実が黒ずんできた。</p>  
<p>No.222 2013年9月1日(日) 晴れ 気温33℃ 参加者17人</p> <p>8/25の振替え活動。猛暑のため作業は午前で終了。</p> <p>●作業/林内散策。法面草刈り、クズの蔓でリース作り。シガラの雑木整理。中の谷で蜂の巣駆除。</p> <p>●観察/ミョウガの花が出ていた。ホオツキが赤らみゴンズイの実も赤くなっていた。クヌギの枝がハイイロチョッキリに切り落とされていた。センニンソウの花が咲いた。</p>  	<p>No.223 2013年9月8日(日) 小雨/曇り 気温26℃ 参加者13人</p> <p>小雨の中での活動。西武信用金庫から助成金を受けることが決定。</p> <p>●作業/シガラの補修整理。法面、広場の草刈りと草集め。</p>   
<p>No.224 2013年9月22日(日) 晴れ 気温28℃ 参加者18人</p> <p>台風の後片付け。観察農園について国税庁から指摘をされたとの報告を受ける。</p> <p>●作業/倒木片付け、落枝拾い。法面の草刈りと道路沿いの掃除。クヌギの苗作り。</p> <p>●観察/タマゴダケ、ウツロイグチ?などキノコが発生。ショウキラン、シラヤマギク、ヤマホトトギスなど秋の花が咲いた。ヤブミョウガは青い実をつけていた。</p>  	<p>No.225 2013年10月13日(日) 晴れ 気温25℃ 参加者14人</p> <p>爽やかな活動日和。「なな山だより29号」配布。</p> <p>●作業/広場、中の谷、西の山の草刈り。落枝集め。どんぐり集め。クヌギの苗移植。ダイコンの間引きと土寄せ。</p> <p>●観察/カントウヨメナ、コウヤボウキの花が咲いた。フユノハナワラビが成長していた。</p>  
<p>No.226 2013年10月27日(日) 晴れ 気温20℃ 参加者15人</p> <p>畑を更地にするための収穫作業。中の谷は前日の雨で、湧水が勢いよく流れていた。</p> <p>●作業/サツマイモ、サトイモ、ニラの収穫。クヌギどんぐりの植付け。カマツカの木養生。</p> <p>●観察/カマツカとマユミの実が赤く熟していた。アキノキリンソウ、オケラ、キチジョウソウの花が咲いた。</p>  	<p>No.227 2013年11月10日(日) 曇り/晴れ 気温14℃ 参加者15人</p> <p>「なな山緑地の会10周年記念誌」完成、配布。ナメコ大豊作。</p> <p>●作業/ナメコ、ダイコン、ネギ収穫。ニラ移植。中の谷階段修理。丸太イス作り。机の鉋かけ。シイタケのホダ木整理。</p> <p>●観察/ワタの実がはじけた。ヤブムラサキの実が美しい。チャノキの花が咲いた。</p>  
<p>お知らせ</p> <p>●10周年記念の遠足は1月18日(土)、小野路周辺を歩くことになりました。参加を希望する方は申込み用紙に名前と携帯番号を書いて下さい。3日前まで申込みを受け付けます。</p> <p>鎌田さん携帯: 090-2649-2969</p> <p>●「10周年記念誌」を受け取ってない方、利用したい方は申し出て下さい。(中原)</p>	<p>なな山だより 第30号 2014年1月12日発行</p> <p>発行 かな山緑地の会 発行責任者 高木直樹 住所 多摩市和田 1394-13 ホームページ http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/ 編集委員 鎌田文雄 中原君代 戸谷恵麻</p>